

第12回 大崎市総合教育会議

日 時 令和7年11月18日(火)
午後1時

場 所 大崎市役所本庁舎4階
災害対策本部室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題
協議事項

第1号 学力向上に向けた「NEXT GIGA」構想について

・・・資料1 【学校教育課】

報告事項

第1号 本市におけるコミュニティ・スクールの今後の展開について

・・・資料2 【学校教育課】

4 閉 会

第12回大崎市総合教育会議 出席者名簿

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
大崎市教育委員会	教 育 長	熊 野 充 利
大崎市教育委員会	教育長職務代理者	青 沼 陽 一
大崎市教育委員会	委 員	佐 藤 寛
大崎市教育委員会	委 員	堀 智恵子
大崎市教育委員会	委 員	早 坂 正 年
大崎市教育委員会	委 員	伊 藤 亜 希
大 崎 市	市 長	伊 藤 康 志

教育部

部 長	伊 藤 文 子	参 事	菅 原 栄 治
参事兼教育総務課長	平 地 久 悦	参事兼生涯学習課長	中 川 早 苗
参事兼地域交流 センター長	早 坂 浩 治	学校教育課長	新 堀 秀 一
文化財課長	高 橋 誠 明	学校教育課副参事	千 葉 弘 昭
教育総務課長補佐	菊 池 勝 行	学校教育課長補佐	藤 木 慶
生涯学習課長補佐	佐 藤 健	学校教育課指導主事	吉 岡 英 美
学校教育課指導主事	木 村 丈 弘	学校教育課指導主事	本 宮 千 佳

市民協働推進部

部 長	藤 島 善 光	まちづくり推進課長	佐 藤 健 一
-----	---------	-----------	---------

事務局

参事兼政策課長	相 澤 純	政策課長補佐	菅 井 和 香
政策課主幹兼係長	操 一 博	政策課主査	角 田 和 也
政策課主事	門 脇 美 月		

学校

- 1 基礎基本の確実な定着と個に応じた指導の充実
- 2 PDCAサイクルに基づく学習指導の改善と望ましい学習・生活習慣の定着
・おおさきスタンダード「みのり」の活用
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現への指導方法や指導形態の工夫・改善
・学ぶ楽しさや達成感を実感できる授業づくり
・ねらいと評価を明確にした単元構想
・学力向上「1・2・3運動」の展開
- 4 ICTを活用した学習指導の充実
・一人一台端末の効果的な活用
- 5 教職員の専門的な資質と能力を高める研修の充実
・宮城教育大学との連携

【基本目標】

自ら考え行動し、社会の変化に対応できる人材の育成

子供たちの教育は、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要

学力の向上

学びに向かう力、人間性等

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

個別最適な学びの推進
↓一人一人に目を向けた指導
協働的な学びの推進
↓他者と協働し、主体的に学びを生み出す指導

家庭での語りから将来への目標意識を持たせる
子供の一生懸命な気持ちを認め支える

地域【社会教育】

学校教育との連携協力：地域の人材を生かした学習支援
家庭教育への支援：地域で見守る安全、安心への環境づくり

家庭

- 1 規則正しい生活づくり
・早寝早起きをする
・家庭であいさつをする
・朝ごはんをしっかり食べる
・ゲームやスマホのルールを守り、時間を決めて使う
・家族との会話・ふれあいを大事にする
- 2 主体的な学習習慣づくり
(1) 家庭学習の習慣化
① 起床時刻
② 家庭学習の開始時刻
③ 就寝時刻
(2) 家庭学習の時間の確保
・学習の量の向上
(3) 家庭学習の内容の工夫
・学習の質の向上

大崎市教育委員会学力向上推進事業・各種研修会等

- 1 学力向上推進「おおさき方式」4つの柱に関する取組
①カリキュラムマネジメントの工夫
②授業改善
③集団づくり
④小中連携
- 2 大崎学力プロポーザル事業

- 3 大崎市教育委員会指導主事学校訪問事業
- 4 大崎市教育研究員研修事業
- 5 学力向上推進委員会の実施
- 6 授業づくり研修会の実施
- 7 年2回標準学力調査の実施
・4月(小学校2～6学年, 中学1, 2学年)
・12月(小学校1～6学年, 中学1, 2学年)

新たな取組（令和7・8年度政策推進枠予算を活用）

- 1 「よむYOMUワークシート」（※1）の活用による読解力向上
- 2 AIドリル、デジタルテストによる学力の定着
- 3 「ロイロノート」（※2）の活用による協働的な学びの推進

児童生徒の学力向上は喫緊の課題であり、これらの事業を活用した取組により、大崎市の子供たちの学力向上を目指していく。

1 各種調査結果の活用

(1) 全国学力・学習状況調査の結果の分析

- ・成果と課題を明確にし、**学校の指導改善の計画に具体的に反映**させる。
- ・校内研修等を通じて**結果を全職員で共有**し、**組織的な改善**につなげる。

(2) 標準学力調査（東京書籍）の活用

- ・全国学力・学習状況調査と併せて年2回の標準学力調査を**比較分析**し、**学校全体でつまずき解消期間も含めてPDCAサイクル**を確実に実施する。

2 読解力向上・学力向上の推進

(1) よむYOMUワークシートの活用

- ・朝学習や国語科の導入などで**継続的に使用する仕組み**を整える。
- ・学校内外での実践を共有し、**活用方法の工夫と改善**を図る。

(2) ロイロノートの活用

- ・思考の可視化や意見交流に活用し、児童生徒が**自分の考えを整理・表現**する場面を設ける。
- ・他者の意見を共有することで**多角的な思考**を促すとともに、ペアやグループでの意見交換、カードの共有を通じて、**協働学習を充実**させる。
- ・プレゼンテーションなどの発表活動を取り入れ、**表現力の向上**を図る。

(3) タブレットドリルやAIドリルの活用

- ・学習のつまずきを個別に把握し、**個別最適な学びの実現**を目指す。
- ・児童生徒の活用状況を把握し、**継続的な取組が可能となるような仕組み**を構築する。
- ・ドリルの結果を教師が把握し、**指導に生かすサイクル**をつくる。

学力向上の実現は、学校・家庭・教育委員会の協働が欠かせないものであり、大崎市においては、学校・家庭・教育委員会がそれぞれの立場から、児童生徒1人ひとりの成長を支え、未来を切り拓く力を育ていけるように各取組を推進していく。

3 家庭学習でのICT利用率

学校の授業時間以外に、**普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらい**の時間、PC・タブレットなどのICT機器を、**勉強のために使っていますか**（遊びなどの目的に使う時間は除く）

【小学校】 **76.1%**（全国74.6%）

【中学校】 **73.9%**（全国69.7%）

- ・家庭学習にICT機器を使用している児童生徒は、**70%以上で全国より上回る**。
- ・ICT機器の使用時間では、**小学校では30分～1時間程度、中学校では30分～2時間程度**の児童生徒が、**各教科の正答率が高い**傾向がある。

学習内容に応じて、**ワークやAIドリルを使い分ける**。特にAIドリルは、**間違いの傾向を分析して問題やヒントが自動で出題されるため個別最適化が可能**。

4 家庭学習の充実

(1) 学習習慣の定着

- ・家庭学習の**目標設定や振り返り**を取り入れ、児童生徒が**主体的かつ目標をもって取り組める工夫**をする。
- ・家庭学習用教材として、**タブレットドリルやAIドリルを活用**する。
- ・**授業と家庭学習を関連付け**、より効果的な取組になるように工夫する。

(2) 家庭との連携強化

- ・学校・学級だよりや懇談会等で**継続的に情報発信**し、**保護者と家庭学習のあり方や学習状況を共有**する。
- ・**スマートフォン等のメディアの使用**について、使用時間や時間帯の制限を設けるなどの**家庭でのルールづくり**を推進する。

大崎市 NEXT GIGA 構想

～すべての子供に、学びの可能性をひらくICT環境を～

教師の支援

個別最適化された
学習支援

学習データを分析し、
つまづきやすい箇所や
得意な分野を把握



協働的な学びの
促進

共同編集ツール等を活
用し、児童生徒同士が
協力して課題に取り組
む機会を提供



探究的な学びの
支援

オンラインでの情報収
集や分析を支援し、児
童生徒の探究スキルの
向上

【基本目標】

自ら考え行動し、社会の変化に
対応できる人材の育成

子供たちの教育は、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要

学びに向かう力、人間性等

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

個別最適な学び
協働的な学びの一体化

児童生徒

ICT
の効果的な活用

学びをつなぐ

学ぶよろこび

身につけさせたい力

基礎的
基本的な
知識・技能

情報活用能力

主体的に
行動する力

課題を発見し
解決する力

論理的に考える力
根拠に基づいて
判断する力

協働して学ぶ力
友達と協働する力

自分を振り返る力
(メタ認知能力)

自分の意見を
伝える力
表現する力

家庭学習 での活用

- ・理解の深化 (ICT)
- ・思考の整理と定着 (学習記録用ノート)
- ・振り返りと自己調整 (ICT+ノート)

ICTで「広げ・深め」
学習記録用ノートで「整理・定着」
双方をつなげて「学び見える化」

大崎市が目指すコミュニティ・スクールの姿

主体的に考え学び、未来を切り拓いていく子供の育成

～地域の特色、人材を活用した取組による「地域とともにある学校づくり」をとおして～

主体的に考え学び、未来を切り拓いていく子どもの育成

地域とともにある
学校づくり
「学校運営協議会」

連携



協働

学校を核とした
地域づくり

「地域とともにある学校づくり」・「持続可能な地域づくり」

学校・地域の
相互理解学校運営・学習
活動の充実地域の人材育成
・活用の活性化安全・安心の
環境づくり

大崎市コミュニティ・スクールの進捗状況について

1 三本木地区コミュニティ・スクールについて(三本木小・中学校で1つの学校運営協議会を設置)

(1) 学校運営協議会の開催

・1回目:5月21日(水) 2回目:10月21日(火) 3回目:2月開催予定

(2) 成果

- ・小学校5年生で「デジタル防災マップづくり」作成のため、消防士、保護者、三本木と学校をつなぐ会と連携し、「防災探検隊」実施
- ・地域学校協働本部及び商工会青年部との連携により、中学生が地域の夏祭りにボランティアとして参加

2 令和7年度予算

(1) 01報酬 99,000円(3,000×11名)

※地域の方が11名+校長2名,教頭2名 合計15名の学校運営協議会

(2) 10需用費(消耗品費) 50,000円

3 設置状況と今後の見通し

年度	令和7年度	令和8年度	～令和10年度	～令和15年度
設置校・予定校	三本木小・三本木中学校	古川北小・古川北中学校 古川第五小学校	10校設置 を目標	全校設置 を目標

4 今後の学校運営協議会設置に向けた方向性

- ・旧古川市内の学校については、1校毎に学校運営協議会を設置
- ・上記以外の地区については、原則中学校区の小・中学校で学校運営協議会を設置

大崎市立民カレッジ
じらくまさん

5 今後の課題

- ・各校(地区)で学校運営協議会を設置する上での委員の人選
- ・予算の確保
- ・コミュニティ・スクールを推進していく上で、関係課、各校との調整を行うコーディネーター的な役割を担う職員の確保